

実習: 系統抽出法による標本抽出個数の計算

調査対象地の面積A	14,782,400 ha	
総格子点数N(母集団とする)	9,239 (対象地を4km四方の格子点に分割し、そこからサンプリングすると仮定)	
目標誤差率e	0.1	
95%信頼度係数t	2	
予備調査時におけるプロット当たりの平均材 \bar{x}	27.46 m ³	※母集団の平均値(真値)
予備調査時におけるプロット当たりの標準偏差s	18.91 m ³	※母集団の平均値(真値)

抽出すべき標本総数 $n = \left(\frac{tCv}{e}\right)^2 = \left(\frac{t}{e}\right)^2 \left(\frac{s}{\bar{x}}\right)^2$ ←ここに式を入力

抽出率 $\phi = n/N$ ←ここに式を入力

抽出間隔 $f = N/n$ ※端数を切り下げる

実際の抽出個数 ※端数を切り下げる

標本抽出開始位置の決定 ※関数RANDBETWEENを使用

標本抽出開始ID ←F18の値を手入力

対象地をメッシュ分割した場合の間隔 $d = \sqrt{A/n}$ (km) ※端数を切り下げる